

## お客様のライフサイクルで低 CO<sub>2</sub> 化を実現するために — IIC の皆さんとの協業の場面が今まで以上に増えていきます —

株式会社 IHI  
理事  
資源・エネルギー・環境事業領域  
ボイラ SBU 長

小澤 幸久  
Ozawa Yukihisa



IIC の皆さん、日頃から我々ボイラ SBU の検査・計測を中心とするさまざまな分野で多大な貢献をいただき、感謝申し上げます。IIC の皆さんが有している機能は、ボイラ SBU にとって欠かせないものとなっています。工場・火力発電所での非破壊検査・品質管理業務、高 Cr 鋼を中心とした寿命評価のための材料試験・分析、特殊検査業務等限りがありません。

現在の IIC のボイラ関連事業は、IHI の目指すべき高い信頼性を担保するコア要素技術と位置付けられ、お客さまが IHI のエネルギー関連製品を指向してくださるのは、高い性能はもちろんのこと、引き渡し後も高い信頼性を誇り、その製品が安心してお客さまの求める事業の最大価値を長期にわたって引き上げるからと考えています。それは、IHI の大切にしている“ものづくり”精神が、設計・製作・調達・建設のみならず、引き渡し後の運転監視・予防保全・メンテナンスといった、製品・プラントのライフサイクルにわたるきめ細やかで、高い蓋然性をもった技術力を生み出し、お客さまの信頼に応えているからだと思っています。これを基盤として築きあげているのが IIC の皆さんの検査技術・計測技術です。

さて、現在のボイラ事業を取り巻く環境は、皆さんご存知の通り厳しい状況が続いています。パリ協定以降、「脱 CO<sub>2</sub>」へボイラ事業環境は猛スピードで変化しています。そのような中で、IHI グループ経営方針 2019 が発表されました。資源・エネルギー・環境事業領域の目指す方向性は、以下の通りとなっております。

### 資源・エネルギー・環境事業領域での目指す方向性：

地域・お客さま毎に最適な総合ソリューションを提供することにより“脱 CO<sub>2</sub>・循環型社会”に貢献する。

“枯渇性資源利用”においては、ライフサイクルで低 CO<sub>2</sub> 化を実現する。

ボイラ SBU では、低 CO<sub>2</sub> 化を実現してお客さまのライフサイクルに貢献できるようさまざまな取り組みを進めておりますが、その中でも IIC の皆さんとの技術開発は、近い将来のための準備すべき取り組みであり、ボイラ SBU のライフサイクルビジネスにとって、とても重要なものとなっています。

- ・ **工期短縮を実現するため検査時間を短縮したい**  
= **稼働率向上**

(火炉壁に対する渦流探傷技術開発/多重エコー調査技術開発、超音波フェーズドアレイ(UPA)検査技術開発、ドローンによる炉内点検実現等)

- ・ **効率的に運転したい、計画外停止を減らしたい**  
= **運用高度化・保守高度化**

(クリンカ付着状況画像処理技術開発、クラウン溶接部の検査技術開発、管内面酸化スケール計測技術開発等)

ここに紹介した技術開発以外にも**稼働率向上・運用高度化・保守高度化**の分野ではIICの事業のさらなる活躍の舞台となり得るに違いありません。

すなわち、IICの皆さんの検査技術・計測技術を最大限に生かすことによって、お客さまの“〇〇したい”が実現できると確信しています。今後もボイラSBUと共に、お客さまへ、より高付加価値サービスを提供できるビジネス創出を目指していきます！